

令和4年度 普及啓発事業

「自然体験活動指導者養成研修」【R4.7.30(土)～31(日)】

◆目的

- ・自然体験を通して、自然を知り、自然に興味を持つ機会を提供する。
- ・自然体験に関するスキル（海の活動やキャンプ）を高める機会を提供する。
- ・子どもと自然との関係、教育における自然体験の意味を深める機会を提供する。

◆目標

- ・参加者の8割以上が若狭湾の自然の美しさ、体験活動への興味を持つ
- ・参加者の8割以上が研修に「満足」を感じる

◆参加実績（募集16名）

参加12名（男性8名 女性4名）

年代 20代：2名 40代：4名 50代：6名

内訳 園職員 2名 小学校職員1名 高等学校職員2名

特別支援学校職員3名 自然体験活動団体指導者4名



◆プログラム

7月30日(土)	
10:30~12:00	シーカヤック講習 外部指導員：大瀬 志朗 ○道具説明 ○操船方法、危険行為、海上・風・危険エリアの見分け方等説明 ○操船練習
13:00~15:30	○シーカヤックで無人浜へ海上移動
15:30~16:30	○テント道具・設営・撤去方法・注意点説明 ○テント設営
16:30~18:00	水辺の活動 ○道具使用方法・危険行為・危険生物説明 ○スノーケリング・磯観察・釣り体験
18:00~19:30	野外炊飯（夕食）【カレーライス】 ○鮎の使い方、マキの割り方・組み方、注意点等説明 ○野外炊飯実践
20:30~21:30	たき火会 外部指導員：大森 和良 ○体験して感じた事や引率者として活動した場合に気をつけたい事等の情報共有
7月31日(日)	
7:00~8:00	野外炊飯（朝食）【カートンドッグ】
9:00~10:30	シーカヤックで自然の家へ海上移動
10:30~11:00	磯遊び
11:00~12:00	使用物品片付け ○道具片づけ方説明・片付け
13:30~15:00	振り返り 外部指導員：大森 和良 ○体験を通して感じた事や職場に戻ってどうしたいか、またどうしていくか等の発表・情報共有



◆参加者の声

- ・実際に自然体験をすることで、改めて海の楽しさや怖さを感じた。
- ・海を渡ったり、海中の生物を見たり、景色を見たり、驚きと感動の連続でした。
- ・自然の中で、寝る事、食事を作って食べる事等、みんなで過ごすことの面白さ・楽しさや、シーカヤックを通して自然の怖さを感じる事ができた。
- ・自然のちょっとした変化にも十分注意し、無理をしないことが重要だと感じた。
- ・状況の変化に合わせて技術を合わせる機会が良かった。
- ・シーカヤックの乗り方、風・波の見方、海や浜でのゴミ処理など様々な技術を学ぶことができた。
- ・子ども達に伝える為に、安全管理や環境構成を学び一緒に楽しく活動ができるよう勉強していきたくと思った。
- ・子どもには、自然を正しく恐れて、自然とのかわり方を学ぶことができるよう指導していきたく。
- ・普段無口な方だが、自然体験をする同じグループという認識で発見した事、気づいた事等積極的に話すことができた。
- ・子ども達が思いっきり楽しめる環境、素直に感動できるような環境を、今後も考えていきたく。
- ・子どもの自然体験活動などを企画する場合、今回の経験をいかしていきたく。

◆成果

- ・アンケート結果より8割以上の参加者が「自然に対する興味が深まった」と回答し、コメントからも「海を渡るという行為を体験して、人間の強さや自然のすごさを肌で感じる事ができた」「海を渡ったり、海中の生物を見たり、海の景色を見たり、驚きと感動の連続でした」等の意見もあり、初心者の参加者でも体験活動に対して自身が参加者側として存分に体験することで、自然体験に対して興味が深まった事が伺えた。
- ・アンケート結果より8割以上の参加者が研修に対して満足と回答し、コメントからも「子ども達が思いっきり楽しめる環境、素直に感動できるような環境を、今後も考えていきたく」「子ども達に伝える為に、安全管理や環境構成を学び一緒に楽しく活動ができるよう勉強していきたくと思った」等の意見があり、指導者としてだけでなく、参加者側として参加し自身が体験することで、体験の意義や楽しさ・怖さを実感することで、研修に対して満足した事が伺えた。

◆事業運営のツボ・工夫・反省

- 体験したことについて、自身が感じた事や子どもがいる時のリスクを想定し、参加者同士で語り合う場をつくり情報の共有やリスク分析することで、多様な視点から「安全に体験活動を行う」ことについて、理解を深められるようにした。
- 年齢や所属等を考慮し、道具や活動内容の説明時に例えば、マキ割りについては対象年齢に対して若狭湾で行っている2人で割るやり方や、1人で割るやり方等実演を交えながら説明し、その際実際に起こった事故事例をデモンストレーションで行う等、引率者として指導する際注意できるようプログラム内容を計画した。
- 周辺の学校（小学校・中学校・高等学校・専門学校・大学・特別支援学校）へはチラシを送付し、それ以外の学校へは、メールに添付して広報した。広報範囲を広げる事で、例年参加があるエリア以外からの参加があった。
- 所属学校の自然体験学習の下見を兼ねて参加している参加者もあり、対象になる子ども情報からできる活動や安全面について紹介し事業後は、若狭湾の資料と一緒に利用についての広報を行った。
- 自然体験に慣れている者、初めての者等様々な参加者がいる為、参加決定通知および事前案内の内容については、初心者が見て準備物等わかるように伝える必要がある。
- 事業名から、初心者向けか自然体験を指導している人へのスキルアップ事業と感じて事業内容について、確認の連絡があった。次回から事業名か事業内容を分かり易くする必要がある。